

「社会運動情報資源データベース」の構想と現状

データベース作成委員会

現在、「早稲田大学文化資源情報ポータル」⁽¹⁾上において、「保守と革新の近現代史データベース」(以下「保革DB」)が公開されている。保革DBは、早稲田大学史資料センター(以下「資料センター」)が所蔵する二つの大型資料群、すなわち「堤康次郎関係資料」及び「日本社会党関係資料」⁽²⁾から構成されており、二〇一〇年度に日本学術振興会科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の助成を受け、吉田順一委員長(資料センター前所長)のもと編成されたデータベース作成委員会がその実務に当たった。⁽³⁾各資料群の全体を網羅しているわけではないものの、現時点(二〇一四年一〇月末日)において、「堤康次郎関係資料」七、五六四件、「日本社会党関係資料」八七〇件、合計八、四三四件の資料画像を公開している。⁽⁴⁾

資料センターでは、保革DBの内容をさらに充実させるべく、その後も継続して科研費の申請を行ってきたが、不採択がつづいた。そこで、大日方純夫(資料センター所長)を委員長とするデータベース作成委員会では、保革DBの成果を継承しつつ、より大きな枠組みのもとで、新たなデータベースを構想することとした。この度、二〇一四年度

の科研費助成を受けた「社会運動情報資源データベース」（以下「社会運動DB」）がそれである。以下、その概要について報告する。

一 データベースの概要

社会運動DBは、資料センター及び早稲田大学現代政治経済研究所（以下「現政研」）が所蔵する社会運動関係資料をデジタル画像化し、その情報を整理・統合して広く国内外に公開しようとするものである。後述するように、含まれる資料群が一部重複するなど、保革DBとは不可分の関係にあることから、社会運動DBの公開方法については、双方の統合（保革DBの社会運動DBへの統合、あるいはより上位のデータベース・カテゴリーのもとでの併存）も視野に、現在検討を進めている。

大学に関わる歴史資料の収集・保管・公開を目的とする資料センターでは、社会実践・社会運動に深く関わった早稲田大学の教員である安部磯雄・北沢新次郎・浮田和民らの関係資料、及び早稲田大学出身の政治家で、戦前、近衛文麿のもとで新体制運動を推進し、戦後、社会党左派に属した風見章とその私設秘書・志富勲負の各関係資料などを受け入れてきた。また、日本社会党関係資料など、大学の枠を超えたより包括的な社会運動関係資料もあわせて受け入れてきた。一方、現代世界が直面する課題を学際的に研究し政策提言を行うことを目的とする現政研も、労働党委員長をはじめ社会運動家として知られる早稲田大学教員・大山郁夫の関係資料等の収集に当たってきた。これら両機関の所蔵資料は、大学と社会・社会運動の関係を問い、大学の社会的位置を探っていくことができる特徴ある資料群であり、また、戦前・戦後の社会・社会運動の連続と断絶の関係を考察していく上でも、重要な手がかりを提供する

ものといえる。

社会運動DBは、これまで両機関が個別に管理・公開してきた社会運動関係資料を統合的にデータベース化することにより、大学の社会的貢献がより一層求められ、また市民運動が高まりをみせる時代状況のなかで、「大学と政治・社会」、「社会運動における国際的連帯」、あるいは「右派と左派との総合的把握」といった社会運動史における新視角を提供することを企図するものである。

二 データベース化を図る対象

科研費の助成に基づき、二〇一四年度にデータベース化を図る対象は、次の四つの資料群（合計五、六六一件）である。

資料センター所蔵資料

- ① 安部磯雄文庫 五三八件
 - ② 日本社会党関係資料 三、二六九件
 - ③ 風見章関係文書（二〇〇五年度寄贈分） 一九二件
- 現政研所蔵資料
- ④ 大山郁夫関係資料（大山家寄贈分） 一、六六二件

上記の各資料群は、おおむね文書類（原稿・草稿類を含む）、冊・綴（刊行物を含む）、書簡、写真などの諸資料によつ

て構成されているが、いずれも一件毎にスキヤニングによるデジタル入力作業を行うとともに、メタデータ⁽⁵⁾を統一する。

各資料群の概要については、それぞれ詳細な紹介がすでになされているので、以下ではその要旨のみを掲げておく。まず「安部磯雄文庫」は、東京専門学校・早稲田大学で教鞭をとるかたわら、キリスト教社会主義に根ざした社会運動家としても知られ、昭和戦前期には社会民衆党・社会大衆党の委員長を務めるなどした安部磯雄（一八六五～一九四九）の關係資料群である。その内容は、①一九六四年度に安部が長く部長を務めた野球部の合宿所「安部寮」から校史資料室に寄贈された論稿・演説資料・新聞雑誌切り抜き帳や、②一九六五年度に安部のご令嬢・丸山夏氏から校史資料係（校史資料室から改称）に寄贈された日記・書簡・原稿・覚書・写真などから構成されている。⁽⁶⁾

「日本社会党關係資料」は、時期・経緯とも詳らかにし得ないが、日本社会党本部から早稲田大学大隈記念社会学研究所（のち早稲田大学社会科学研究所→社研）に移され、さらに社研のアジア太平洋研究センターへの改組（一九九七年）を経て、大学史資料センターの所管に帰したものである。⁽⁷⁾ 資料目録については、現時点ではその全体をカバーするまでには至っていないが、整理の完了した①「党中央」⁽⁸⁾ 各種通達類・活動報告・調査資料など党本部關係資料（一部を改革DBにて公開中）、②「党地方」⁽⁹⁾ 本部への要請書や報告書・名簿など地方支部關係資料、③「組合關係」⁽¹⁰⁾ 要請書・陳情書その他労働組合・協同組合關係資料、④「綴」⁽¹¹⁾、⑤「冊」などの分類から、順次社会運動DBに組み入れていくこととなっている。

「風見章關係文書」は、早稲田大学出身（一九〇九年大学部政治経済科卒業）の政治家・風見章（一八八六～一九六一）の關係文書であり、資料センター主催の二〇〇五年度秋季企画展「野人政治家 風見章の生涯」を機に、曾孫の風見翔平氏から寄贈された資料群である。なお、本文書の内容は風見の遺した日記と手記であるが、その主要部分である

一九三六年から四七年までの日記・手記・論考については、北河賢三・望月雅士・鬼嶋淳編『風見章日記・関係資料一九三六～一九四七』（みず書房、二〇〇八年）に収載されていることを付記しておく。⁸⁾

「大山郁夫関係資料」は、大山郁夫（二八八〇～一九五五）没後、夫人・柳子氏（一九八七年一〇月逝去）によって保管され、一九八八年三月、ご令息・大山聰氏より現政研に寄贈された資料群である。⁹⁾ 本資料は、その後、現政研内に設置された研究グループによって整理が進められるとともに、広く学内外の研究者に公開されてきたが、二〇〇〇年にはマイクロフィルム化も完了し、よりアクセスが容易となった（社会運動DBでは、マイクロを複製した株式会社雄松堂書店のご理解とご協力により、このマイクロからのデジタル化を行った）。その内容は、大山の幼少年期から亡命以前、アメリカ・ドイツ留学時代、アメリカカ亡命時代、さらに帰国から死去までの全生涯にわたる資料及び書簡、写真、蔵書・雑誌などで、大山郁夫評・研究を含む。

なお、マイクロ化された「大山郁夫関係資料」には、ノースウエスタン大学図書館所蔵のコールグロウ文書¹⁰⁾より、大山に関係する資料のコピー（八八一件）も収められているが、社会運動DBには収載しなかった（マイクロは引きつづき現政研にて閲覧可能である）。

三 現政研所蔵資料の移管と今後の展望

データベース作成委員会では、以上のような構想のもとで、二〇一四年夏から社会運動DBの作成を開始し、現在、業者委託によるデジタル入力作業と、「日本社会党関係資料」の細目録整備・個人情報等確認作業を並行して進めている。そうしたなかで、データベース構想時には現政研所蔵であった「大山郁夫関係資料」（コールグロウ文書・大

山全集関連資料を含む)が、二〇一四年九月一日、「八田嘉明文書」(一、五九三件⁽¹¹⁾)とともに資料センターに移管されることとなった。これによって、資料センターは早稲田大学が有する社会運動関係資料を一元的に所管することとなり、各資料群を統合的な形でデータベース化するための基盤が形成されたということができる。

科研費(研究成果公開促進費・データベース)は基本的に単年度毎の申請となるため、次年度以降の展望を確言することはできないが、現時点においては、差し当たり、次のような内容を想定している。すなわち、今後も社会運動DBプロジェクトの中軸となるのは、「日本社会党関係資料」である。前記したように、同資料群の大半はまだまだ未整理の段階にとどまっており、本プロジェクトの推進力を借りつつ、さらに整理の歩を速めていく必要がある。

また、すでに今年度デジタル化を達成した「風見章関係文書」については、二〇一三年度にそれを補完する資料群が同じく風見翔平氏より寄贈されているし(現在整理中)、風見の私設秘書を務めた志富勲負の関係文書(九九六件⁽¹²⁾)も資料センターが所蔵している。それらをあわせて組み込んでいくことで、社会運動DBは風見章関連資料を大方網羅することとなり、その有用性はさらに向上するはずである。

その他、次年度の科研費申請には「浮田和民文庫」(一、九一六件⁽¹³⁾)のデジタル化も計上している。さらにその先には、保革DBの一翼たる「堤康次郎関係資料」のデジタル化、その完遂も求められている。いうまでもなく、「社会運動」という枠組みは本データベースの存立基盤であるわけであるが、かといってその枠組みの適用を厳格化する余り、収載される資料群のバリエーションが損なわれるようなことがあっては本末転倒であろう。作成委員会では、社会運動DBに対して、資料センターが所蔵する多彩な資源にアクセスするための開かれた窓口としての機能をも担わせつつ、段階的に内容の充実を図っていきたいと考えている。

- (1) 早稲田大学が保有する文化資源を横断的に検索することができるとデータベース・サイト。現在、坪内博士記念演劇博物館・會津八一記念博物館・大学史資料センターの三機関が参加し、運用サーバーについては演劇博物館デジタル・アーカイブ室が管理している。
- (2) 「堤康次郎関係資料」は、大正期から昭和三〇年代にかけて拓務省政務次官・衆議院議員・西武グループの創設者などとして日本の政・官・財の分野で活躍した堤康次郎の生涯全般に関わるものである。とりわけ、堤の政治活動や鉄道事業、地域開発についての文書が大半を占める。「日本社会党関係資料」は、社会党分裂時（昭和二六年（三〇年）の右派社会党関係の史料が多くを占めており、党本部・地方支部関係、労働組合・協同組合関係、平和運動・国際関係などに関する情報を豊富に含む社会運動史の第一級史料である（後述）。
- (3) 保革DBについてより詳しくは、「保守と革新の近現代史データベース」について、本誌四二巻（二〇一一年三月）、「保守と革新の近現代史データベース」の一部公開と進捗状況」同四三巻（二〇一二年二月）を参照。なお、本誌四三巻以降の収録記事は、早稲田大学図書館が運用する「早稲田大学リポジトリ」上でも閲覧・ダウンロードすることができる。
- (4) ただし、著作権や個人情報保護の観点から、目録情報のみを掲げた資料も存在する。
- (5) ID（データベース全体）／分類／目録ID（各資料群毎）／資料群名／資料名／作成者／出版社／受取／作成年月日／形態／数量／サイズ・刻字／備考。
- (6) 佐藤能丸編「早稲田大学大学史編集所蔵 安部磯雄文庫目録」本誌二三巻（一九九一年三月）。なお現在、資料センターのホームページ上からも、目録を閲覧・ダウンロードすることができる。また、二〇一二年度には丸山夏氏のご令息・丸山達雄氏より、「安部磯雄文庫」を補充する関係資料群が資料センターに寄贈された（伊東久智「丸山達雄氏寄贈安部磯雄関係資料」（二〇一二年度寄贈）目録」本誌四五巻、二〇一四年三月）。
- (7) その詳細については、梅森直之「日本社会党関係資料から戦後をながめる」『改革者』五七〇号、二〇〇八年一月。前掲「保守と革新の近現代史データベース」について」をそれぞれ参照。
- (8) 風見章の経歴を含め、さらに詳しくは、望月雅士「風見翔平氏寄贈 風見章関係文書」目録」本誌四五巻（二〇一四年三月）を参照。
- (9) 早稲田大学現代政治経済研究所（大山郁夫とその時代）研究グループ編『早稲田大学現代政治経済研究所蔵 大山郁夫関係資料目録』（雄松堂出版、二〇〇〇年）には、黒川みどり氏による詳細な解説が付されており、あわせて参照されたい。

- (10) 前記『大山郁夫関係資料目録』によれば、「当時ノースウエスタン大学政治学部長であった国際政治学者ケネス・W・コルグロウヴ（一八八六―一九七五）の書簡・研究等を集めたものでコルグロウヴは亡命中の大山の庇護者であったことから、その一部に大山に関するものが含まれている」（黒川みどり氏による解説、三頁）。
- (11) 「八田嘉明文書」については、早稲田大学現代政治経済研究所（「満洲」問題の研究）(念) 編『早稲田大学現代政治経済研究所所蔵 八田嘉明文書目録』（雄松堂出版、一九九六年）を参照。本文書も「大山郁夫関係資料」と同様、すでにマイクロ化が完了しており、資料センターへの移管後も現政研にて閲覧可能である。
- (12) 望月雅士「志富實氏寄贈 志富勲負関係文書」目録」本誌四四卷（二〇一三年二月）。
- (13) 檜皮瑞樹「資料紹介 浮田和民文庫目録（上）（下）」本誌四一巻（二〇一〇年三月）、四二巻（二〇一一年三月）。